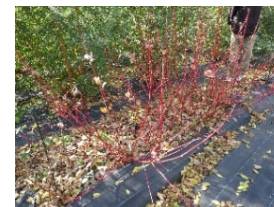


花の国づくり滋賀県協議会（滋賀県）

協議会構成団体：滋賀県花き園芸協会、滋賀県生花商協会、
京都生花株式会社、株式会社なにわ花いちば、
日本フラワーデザイナー協会滋賀県支部

対象品目

切り花：バラ、キク
カーネーション
花木類：ユーカリ、メラレウカ
ビバーナムティナス
サンゴミズキ



サンゴミズキ



ビバーナムティナス

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・キクやユーカリ等について、物流コスト上昇に対応するため、流通関係者、県関係者で検討会を開催し、流通の効率化に向けた集出荷および輸送体制の見直しについて検討を行った。

・検討の結果、効率的な集出荷となるよう、隣接する3つのJAで集荷場所を1か所に集約することができた。
・キクについては出荷箱の規格が産地や生産者により異なるため、荷物の積み下ろしが非効率になることが課題として残った。

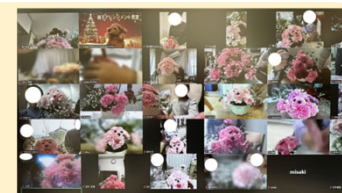


検討会

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・日常生活における花きの定着を図ることを目的とし、小学1～3年生と保護者を対象にオンラインでの花育事業（アレンジメント教室、花の取り扱い説明等）を実施した。

・オンラインでの開催とすることにより、134組（R5実績：70組）の親子の参加があった。
・県内花き産地の紹介なども行うことで、花をより身近に感じてもらうことができ、参加者へのアンケートでは（回答数73組）、花の購買意欲向上したという回答が95.9%となった。

カーネーションを使用した
アレンジメントのオンライン講座

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・花木産地の育成においては、「花物」と「実物」の複数品目の組み合わせによる産地形成が必要であることから、「花物」および「実物」の仕立て方法や施肥方法等について栽培実証を実施した。

・バラについては、夏季の高温により病害虫の増加や品質低下や採花本数の減少が問題となっていることから、物理的、生物的防除法および遮光・遮熱資材について実証を行った。

・花木の栽培実証により、ビバーナムティナスが蕾～実まで周年的な出荷が可能と見込まれた。また、メラレウカ、サンゴミズキは生育が早く、定植翌年の収穫が可能と見込まれた。栽培実証および先進事例調査の結果をもとに『花木類栽培の手引き』を作成した。
・バラについては、UV-B照射でうどんこ病の発病率が30～80%低下し抑制効果を確認できた。UV-B 蛍光灯設置の初期・維持費用と防除費用を合わせても対照区の防除費用と大差は無く、導入利点は大きいと考えられた。
・ドローンでの遮光資材塗布については、塗布回数を1回から4回に増やすことで、遮光剤の落ちやすいエフグリーンハウスにおいてもガラスハウスと同程度の効果を得ることができた。

UV-B照射による
バラうどんこ病の抑制

< 今後の取組予定 >

- ・キクの流通の効率化については、荷物の積み下ろしの効率化を図るため、出荷箱の統一について検討する。
- ・花育事業については、参加者を増やして継続実施していく。
- ・夏季の高温対策については、本県の主要品目である露地のコギクと施設栽培のアスターで対応技術の検討を行う。

京都府花き振興ネットワーク（京都府）

協議会構成団体：京都府花き生産組合連合会、京都生花株式会社、株式会社大原総合花き市場、京都府花商協同組合、京都府園芸商組合、京都府農業協同組合中央会、京都市、京都府

対象品目

花壇苗：ペゴニア、マリーゴールド、ナデシコ、パンジー（ビオラ）
切り花：バラ、ひまわり、花しょうぶ、コギク、カラー
切り枝：コットンフラワー、桃、ユーカリ、ミモザ



コットンフラワー



コギク

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・コットンフラワーについて、従来の輸送方法（横置き段ボール出荷）と、パレット出荷（フィルム及び袋出荷）を実施した場合の、生産者の労働時間や出荷コスト等の比較を行い、効率的、効果的な輸送方法について、実証試験を行った。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・府内産枝物花きの生産拡大を図るため、売れる枝物花きの出荷規格や品質等の情報収集と先進的な生産・出荷技術の習得に向け、主産県（奈良県）への視察を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・コットンフラワーについて、府内花き生産者と連携したクリスマスアレンジメントのワークショップを開催した。
・京都市内小中学校において、府内産ひまわり・花桃を使ったアレンジメントの展示を行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・カラーについて、スクミリングガイによる被害が深刻であるため、捕獲器・侵入防止網の防除対策について実証試験を行った。
・コギクについて、夏季高温による被害が深刻であるため、資材ごとの土壌水分保持力の実証試験及び夕方散水による開花遅延対策の実証試験を行った。

< 取組の成果 >

・従来の輸送方法（横置き段ボール出荷）では枝折れ等に注意が必要だったが、パレット出荷（フィルム及び袋出荷）では出荷準備に係る作業時間を短縮できた。（従来：5分／箱→パレット出荷：3分／束、2分／袋）
・従来の輸送方法では、箱の大きさ以上のものは、小さいサイズへ変更する必要があったが、パレット出荷（フィルム及び袋出荷）では大きい規格の出荷が可能となった。また、出荷資材の単価が安いこと、出荷コストを削減できた。（従来：418円／箱→パレット出荷：68円／束、81円／袋）



パレット出荷の様子

・地域で栽培されている枝物（南天・紅葉・寒桜等）について、寒暖差や日照時間の差を活かした多品目の枝物を周年出荷する手法や出荷規格に応じた剪定方法を手に入れた。
・府内では栽培されていない品目について、生育期間や栽培管理等、枝物花きへの転換に向けた情報を入手できた。



枝物花き視察の様子

・府内花き生産者と連携したクリスマスアレンジメントのワークショップには、56組の参加があり、保護者へのアンケートでは、ワークショップの実施後、「月に一回以上購入する人の割合」が20%増加した。
・府内産ひまわり・花桃を使ったアレンジメントの展示には、48校の参加があり、学校へのアンケートでは、展示の実施後、花き購入回数及び1回あたり購入金額が全体で約40%増加した。



ワークショップの様子

・カラーのスクミリングガイ対策実証では、スクミリングガイ密度の低減に効果が見られたが、越冬したスクミリングガイが、春先からカラーを食害することが予想されるため、調査期間を春の早期からに変更して、引き続き対策する必要がある。
・コギクの資材ごとの土壌水分保持力の実証試験では、被覆資材の違いによる保水性に差はなかった。夏季高温による被害を軽減するには、土壌改良や環境に応じたかん水方法を検討する必要がある。



被覆資材実証の様子

< 今後の取組予定 >

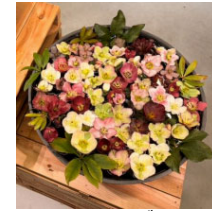
・切り花の栽培が盛んな主産地を視察し、先進的な生産・出荷技術の習得、最適な品種選定及び有望品目への転換を目指すとともに、府内花き生産者向け情報発信を行う。
・祇園祭における檜扇の展示や大型商業施設における飾花イベントの開催等、各品目における消費拡大の取組を行い、府内産花きの消費拡大を図る。
・コギクにおける適切なかん水方法及び頻度の実証及び乾燥対策マニュアルの作成等、花き生産の課題解決に向けた技術実証の取組を行い、府内産花きの生産振興を図る。

大阪府花き振興協議会（大阪府）

協議会構成団体：大阪府花き園芸連合会、大阪府生花商業協同組合、大阪鶴見花き仲卸組合、株式会社日比谷花壇、京阪園芸株式会社、株式会社大阪鶴見フラワーセンター、株式会社なにわ花いちば、株式会社西日本花き、株式会社JF兵庫県生花、株式会社JF鶴見花き、花キューピット大阪連合支部、日本ハンギングバスケット協会大阪支部、大阪府フラワー技能士会、国際花とみどりのセラピー協議会、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会大阪支部、環境農林水産部農政室推進課・流通対策室

対象品目

鉢 花：胡蝶蘭鉢花
クリスマスローズ
花壇苗：夏用花壇苗
切り枝：サクラ、ミモザ



クリスマスローズ/フローティングフラワーの提案

アンゲロニア/BS処理
左:処理 右:無処理

生花店でのミモザ開花促進技術を実証

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・花壇苗の輸送にカーゴを導入し、現在流通している複数の花壇苗用トレイの配置による棚への積載可能な最大数量を検討した。

・胡蝶蘭の鉢・苗の回収・リサイクルを、最小限の物流で効率的に行う体制を構築するため、福祉事業所業務を導入して鉢・苗の回収・リサイクルの流れを設計し作業を実証した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・生産、流通、小売が一体となったイベント、「花のボヤキ展」をオフィス街で2回開催し、消費者の声をダイレクトに収集した。

・「関西クリスマスローズフェスタ」を家族連れの多い万博記念公園など4会場で開催し、寄せ植えセミナーや植栽体験等を実施した。

・将来の消費者となりうる児童生徒に対し、心理学を基にしたフラワーアレンジ制作による花セラピーの授業を実施した。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・低温貯蔵によるサクラ切り枝の収穫後開花調節技術を実証した。

・生花店におけるミモザ開花処理試験を実施した。

・夏用花壇苗育苗時のバイオスティミュラント処理について実証試験を実施した。

・卸売市場のカーゴを基準とした9cmポット積載実証ではSS24トレイ×9トレイの配置による積載効率が高かったが、わずかにオーバーサイズとなり、作業性が低下した。

・生花店による鉢回収⇒卸市場への持ち込み⇒福祉事業所による解体⇒生産者による再利用実証を行い、作業の手順を試行するとともに、実作業から作業安全マニュアルを作成した。一方、参加事業者以外の鉢の置き去りへの懸念や、作業環境の確保など市場での運用上の課題が明らかとなった。

・「花のボヤキ展」において消費者の声を二次元コードを用いてWEB上で収集・分析した結果、イベント会場において花の香りを体感できたという回答が最も多かった。また、回答者の97.9%がイベント後に生花店に行ってみたいと答えた。

・クリスマスローズ品種コンテストや家庭での楽しみ方セミナー、フローティングフラワー展示、寄せ植え体験を実施した結果、88%がイベント内容に満足したと答え、府内生産者の市場出荷実績は前年度比122.9%となった。

・花セラピー実施後、幼稚園、中学校、通信制高校、普通科高校では家庭での購入割合がそれぞれ、19、21、25、8ポイント上昇した。在宅割合が高いと考えられる通信制高校での効果が高かった。

・サクラ切り枝は品種により低温貯蔵後の開花性が異なり、山桜などは6月から開花しなかったが、八重桜は8月、鉢植えは9月まで開花可能であった。

・ミモザ切り枝はR7年1～2月の少雨・低温の影響から、開花処理液を用いても開花が進まなかったが、処理液の加温により開花率が高まった。

・バイオスティミュラント（BS）処理は品目により効果が異なった。高温生育性が劣るサルビアの生育・開花は促進傾向であったが、効果にばらつきが見られ、アンゲロニアでは生育・開花が促進、クリンソウでは枯死率が低下した。



リサイクル作業における安全確保のためのマニュアルを作成



府内産花きのPR並びに生花の魅力伝える「花のボヤキ」展をオフィス街で開催



8月中旬まで八重桜の開花を確認

サルビア/BS処理
左:処理 右:無処理

< 今後の取組予定 >

・複数産地において、輸送用カーゴを用いた7.5cm、9cm、10.5cm径のポットサイズでの積載試験を実施する。

・高温障害が多発するパンジー育苗について、その対策としてバイオスティミュラントを用いた育苗試験を実施する。

・大阪特産のアイリス切り花について、正月需要に合わせるための長期低温貯蔵技術を確認する。

・胡蝶蘭鉢回収・リサイクルについて、試行した作業手順を改善し、障がいのある人材が取り組みやすい作業方法としてマニュアル化するとともに、鉢回収の取り組みを関係機関に周知する。

・大阪産花きの認知度向上と若い世代への需要拡大をターゲットとした、「関西ローズエキスポ」、「花のボヤキ展」、「花セラピー」を各所で開催する。